

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

今井 智子

石坂 郁代

内田 信也

宇野 彰

勝木 準

倉内 紀子

倉智 雅子

佐藤 睦子

椎名 英貴

城間 将江

鈴木 恵子

玉井 ふみ

中村 光一

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

今年の秋は暖かい日が続いていましたが、北風の到来とともに師走の季節となりました。

本誌は発刊から15年が経過しますが、すべての言語聴覚障害領域を網羅する学術誌として幅広い領域の論文を掲載してきました。過去2年間に掲載された原著論文、症例報告、短報の障害領域を調べてみると、最多が失語症・高次脳機能障害領域で13編、次いで摂食嚥下障害領域が11編、言語発達障害領域が5編、吃音領域が3編、発声発話領域が1編、聴覚障害領域が1編となっています。このうち約40%の論文が言語聴覚療法における評価・訓練・指導、予後予測などについて検討しており、残りの約60%が評価・指導・訓練法を開発するための基礎的研究の成果を報告しています。このほか、調査報告や現場最前線では言語聴覚士の業務実態などが報告されています。

言語聴覚障害学(Speech-Language Pathology and Audiology)は、健常な言語・コミュニケーション、認知や摂食嚥下過程の科学的究明を基盤とし、その障害の病態・症状、原因・発生メカニズムの解明、および予防、評価、訓練・指導・支援に関する理論と技術の開発を目指す学問分野といえます。本誌の掲載論文はまさにこの学問分野を具現しており、よりよい評価・訓練・指導・支援法の開発に向けた多様な観点からの研究論文が掲載されています。

しかしながら、障害領域についてみると、成人領域(失語症、高次脳機能障害、摂食嚥下障害)の論文に比し、聴覚障害と発達障害に関する論文が少ないのが気になります。人口の少子高齢化の影響があり、小児領域で働く言語聴覚士数の拡大が緩やかであるという現状がありますが、聴覚障害と発達障害は本分野の根幹をなす領域です。また他の障害領域の研究や臨床が進歩するうえでも、これらの領域の研究の発展が非常に重要です。今後、すべての障害領域から多数の投稿が増えることを期待したいと思います。

今号は、発達障害、失語症、構音障害に関する原著論文3編、症例報告2編、短報2編が掲載されています。いずれも言語聴覚障害学とその臨床の着実な歩みを進める論文であると思いますので、ご一読をお勧めします。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第15巻 第4号)2018年12月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2018, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)